

## 日本列島の最上位地質体：飛騨外縁帯一重ヶ根地域の地質

## The top geological unit in Japan: The geology of Hitoegane section of Hida Marginal Belt

# 中間 隆晃 [1]; 昆 慶明 [2]; 平田 岳史 [3]; 大藤 茂 [4]; 柳井 修一 [5]; 丸山 茂徳 [6]

# Takaaki Nakama[1]; Yoshiaki Kon[2]; Takafumi Hirata[3]; Shigeru Otoh[4]; Shuichi Yanai[5]; Shigenori Maruyama[6]

[1] 東工大・理・地惑; [2] 東工大・理・地球惑星; [3] 東工大・理・地球惑星; [4] 富山大・院・理工学; [5] 株) ジオ・コミュニケーションズ; [6] 東工大・理・地惑

[1] Earth and Planetary Science, T.I.Tech.; [2] Earth and Planetary Sci., Tokyo Tech.; [3] Earth and Planetary Sci., TITech; [4] Grad. School, Sci. & Eng., Univ. Toyama; [5] J-Geo.com; [6] Earth and Planetary Sci., Tokyo Institute of Technology

今日まで、日本列島最古の地層は、束田・小池 (1997) によってオルドビス紀のコノドント化石が報告された飛騨外縁帯の凝灰岩層であるとされていた。束田はコノドント化石を産出した一重ヶ根地域の地質構造を、下位のオフィオライトと上位の凝灰岩層が垂直に立った境界で接したものとして記載したが、今回改めて地質構造を調査した結果、束田の記載は大幅に見直す必要があることが分かった。オフィオライトとの接触境界など、数箇所にて凝灰岩を採取しそのジルコン年代を分析したところ、従来よりもさらに古い年代が得られたほか、それぞれの年代に幅があり、一重ヶ根地域の地質構造が複雑なものであることがわかってきた。今回は、調査および年代分析の成果を発表する。